

IAU 報告 月(第16), 惑星(第17) 委員会

宮本 正太郎*

8月24日より9月2日の会期中、最初と最後の日の総会をのぞいて、毎日委員会がひらかれ多忙であった。3年前のシドニー総会以来、ロケットによる金星、水星、木星の観測が新しいデータをもたらしたし、会期中火星生物ロケットが着陸して実験をはじめた。委員会ではこれらの観測報告があり、多くの研究発表があった。ヴァイキング号が着陸して担当者は忙しい時期であったが、M.E. デイビス氏外、NASA 関係の研究者も出席していた。しかし、ソ連からは月惑星分野の専門家が一名も現われなかった。その理由は明らかでない。

月委員会ではオキーフ氏が座長となって、クレーターの原因についての討論会がもたれた。これにはアメリカの地質学者グリーン氏も招待をうけて参加していた。クレーターの原因については隕石説と火山説が対立し、討論会をひらくと感情的な議論になるので、アメリカでは長年の間会合はもたれなかった。アメリカでは隕石説が圧倒的であるが、オキーフ氏は一昨年頃から自分が世話役となって、手紙による意見交換、討論をはじめた。今回久々に討論会がもたれたわけである。今回は結論は勿論出なかったのであるが、月のサンプルの化学分析以来、月に火山活動のあることはすべての研究者が認めるようになった。

ヴァイキングについては実験が進行中であるため、意見を述べるには時期がはやすぎた。しかし、NASA の関係者は、カプセルの中の放射性炭酸ガスが時間と共に増加する傾向の現われないことがっかりしていた。第一回の実験で直ちに生物の反応が出るとは誰も予想していなかったのであるが、担当者としてはやはり意気があがらなかったようである。

会期の後半分は命名委員会の作業で手一杯であった。近年マリナ 10 号によって水星表面の地形がわかり、マリナ 9 号、ヴァイキング 1, 2 号によって火星の詳しい地形が明らかにされた。新しく判った地形に名前をつけるのが命名委員会の役目である。

水星はモリソン氏、火星は B. A. スミス氏が世話役となり、それらを総括して、命名委員会全体をカナダの P. ミルマン氏が運営にあたった。

火星はクレーターの他に火山あり、地溝あり、平原ありで、作業は難航し、ここ数年多くの意見が出された。もはや地中海一帯の古地名だけでは足りず、インターナショナルな方針の下に世界各国の地名が選ばれた。ヴァ

イキング号の着陸地点付近は必要上こまかい地形にも名前がつけられたが、それは、今回アメリカの成功に敬意を表して、合衆国各地の田舎の村の名前をよく採用した。ヴァイキング号が着陸して写したカラー写真といい、地形につけた名前といい、火星世界は西部劇の舞台でも見ているような感じである。

水星の表面は月のようにクレーターに掩われていることが明らかになった。月の場合、表側の、昔から使われて来たクレーター名の他に、裏側のクレーターにも人名がつけられた。命名の方針は、昔の文化人の名前で、現存の人の名はつけない。また政治家の名は昔の人も今の人も遠慮するというのであった。月のクレーターには科学者、哲学者の名前が多く採られているが、裏側のクレーターに大量の名前が必要となったため、もはや種ぎれとなった感じである。水星の沢山のクレーターの命名に際しては、音楽家、小説家、画家の名前も採用されている。今回命名されたクレーターは大きいものだけ 135 個であるが、そのなかには、誰でも知っている作曲家、バッハ、ベートーベン、ショパン、チャイコフスキー、シューベルトの名もみえている。また古いところではホメロス、ヘシオドスの文人からトルストイ、プーシュキン、ミルトンの名もある。画家も多い。デューラー、ラファエル、チチアノ、ロダン、ルノアール、古いところでデオットなどがある。

日本人の名前も 13 名ほどひろってもらった。次にその名前を一括して表にしておく。マリナ 10 号が水星に近づいてゆく途中で撮った写真のほぼ中央に、光条をもったよく目立つクレーターがある。このクレーターには先年物故したカイパーの名がつけられている。ところがこのカイパーは実はもっと大きいクレーターの寄生クレーターで、その大クレーターにわが紫式部の名前がつけられたのである。

	緯度	経度	直径
狩野永徳	-21°5	157°5	105 ^{km}
二葉亭四迷	-15.5	83.5	55
鈴木春信	15.5	141	100
安藤広重	-13	27	140
柿本人麻呂	-16	16	105
吉田兼好	-21	16.5	90
黒沢琴古	-51	23	180
紫式部	-12	31	125
清少納言	-63.5	88.5	130
俵屋宗達	-48	19.5	130
紀貫之	-62	22.5	80
運慶	-31	62.5	110
世阿弥	- 2.5	148	125

* 京都大学名誉教授